

1

第1章

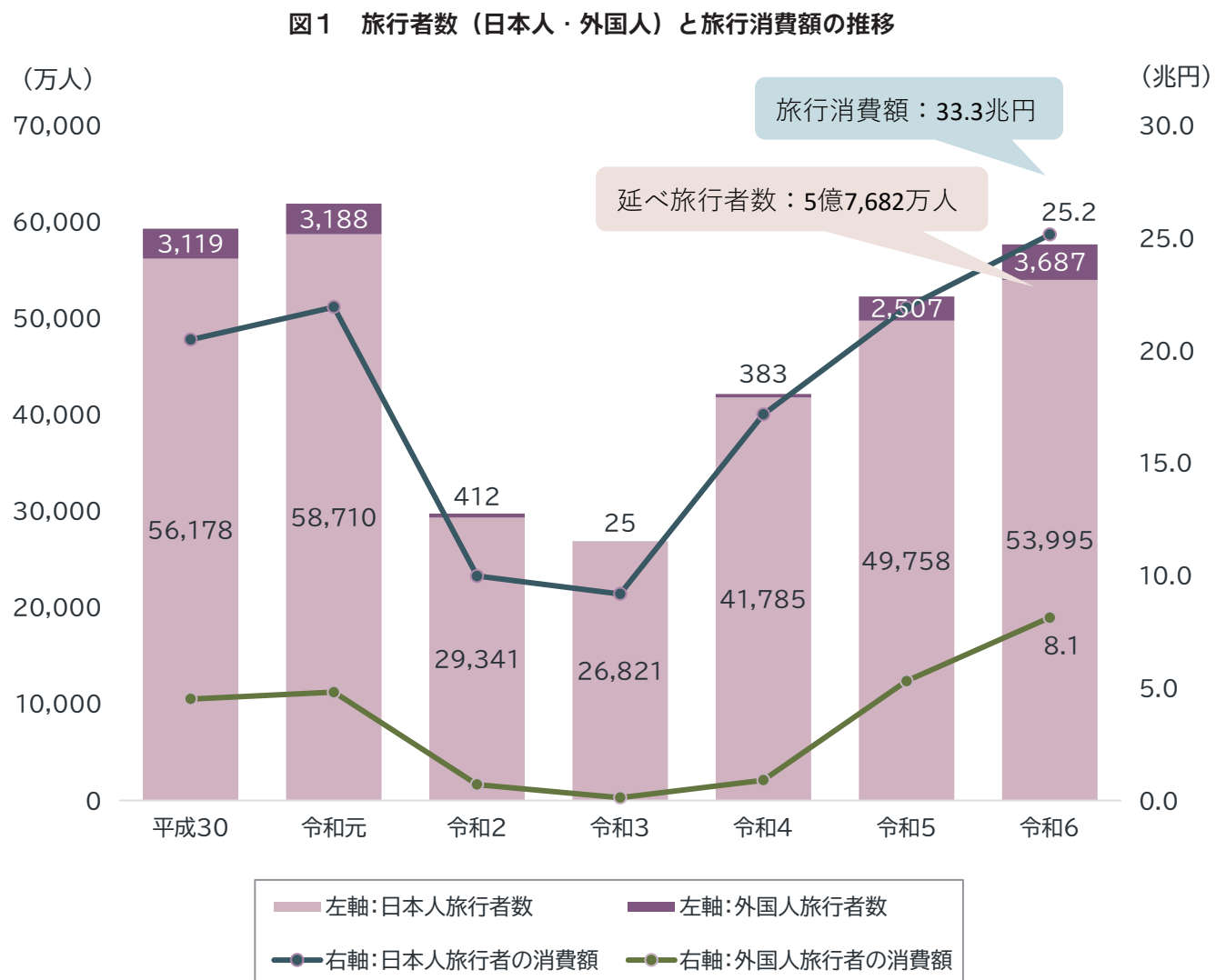
甲府市の観光を 取り巻く状況

01 | 我が国の観光動向

① 全体

日本人と外国人の旅行者数の推移を見ると、新型コロナウイルス感染症の影響により大幅な落ち込みが見られたものの、その後は回復基調にあります。令和6年の延べ旅行者数は5億7,682万人となり、令和元年(新型コロナウイルス感染症拡大前)と比較すると6.8%減少している状況にあります。旅行消費額は33.3兆円となり、過去最高水準を記録しました。旅行者数については感染症拡大前の水準には及んでいないものの、一人当たりの支出額は増加しており、旅行に対する消費動向の変化がうかがえます。

また、訪日外国人旅行については、令和6年に3,687万人が日本を訪れ、旅行消費額は8.1兆円となり、これまでで最も高い水準となりました。円安や中国を含むアジア市場の回復が追い風となり、インバウンド需要は急速に拡大しています。



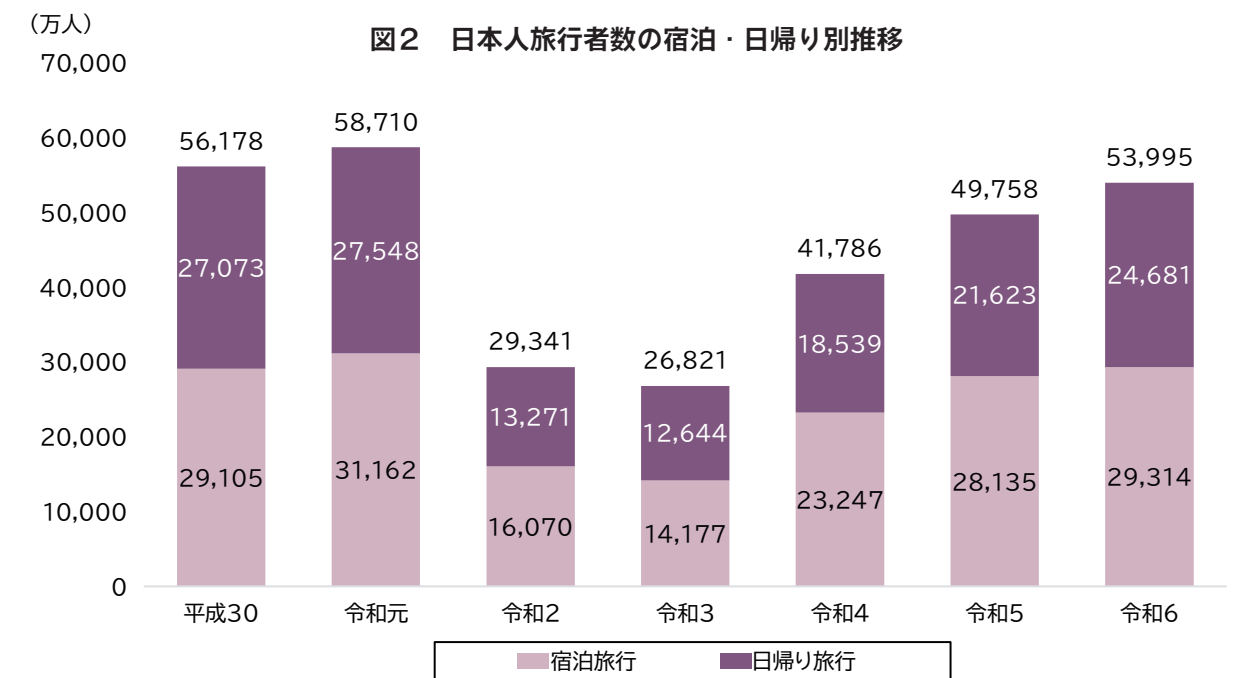
出典：観光庁 旅行・消費動向調査、インバウンド消費動向調査より作成

② 日本人旅行者の動向

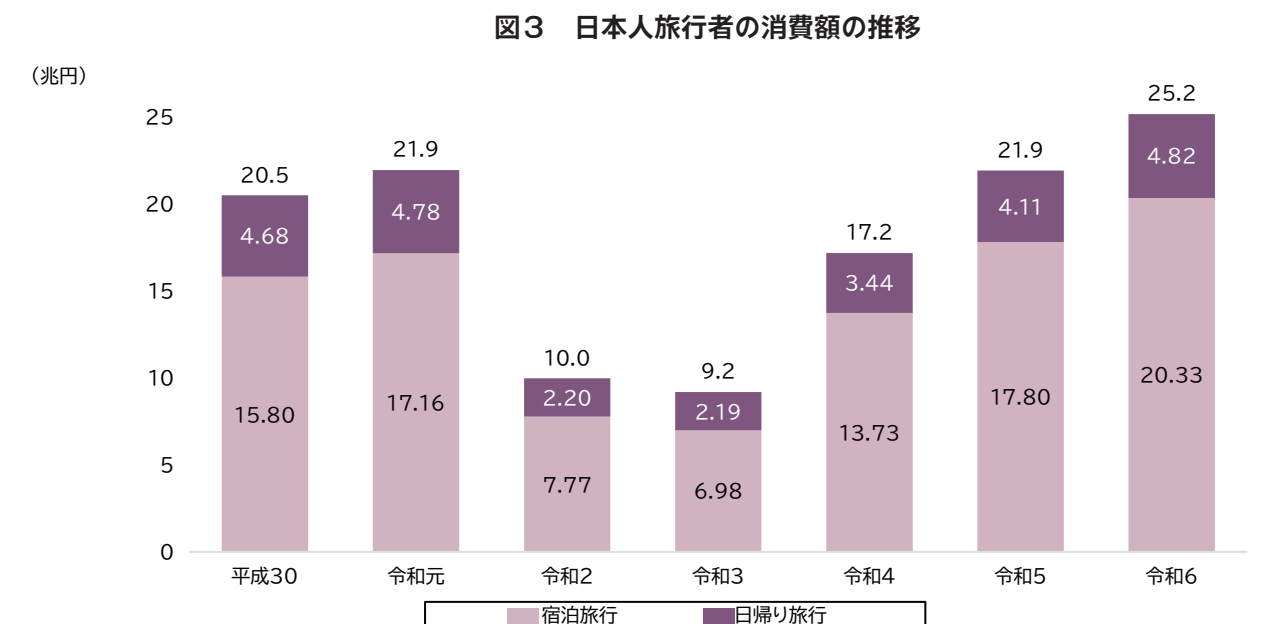
日本人旅行者数の推移(図2)を見ると、令和6年の延べ旅行者数は5億3,995万人となり、前年から8.5%増加しましたが、令和元年(新型コロナウイルス感染症拡大前)と比較すると依然として8.0%減少しており、宿泊旅行・日帰り旅行ともに回復が進んでいるものの、いずれも感染症拡大前の水準には至っていません。

一方、旅行消費額(図3)は、令和6年に25.2兆円となり、前年に続き大幅に増加し、令和元年と比較しても15.1%増加しました。特に宿泊旅行による消費額の伸びが顕著です。

このように、日本人の旅行者数は回復途上にあるものの、旅行の質や消費行動の変化により、観光消費は拡大している状況にあります。



出典：観光庁 旅行・観光消費動向調査より作成



出典：観光庁 旅行・観光消費動向調査より作成

③ 訪日外国人旅行者の動向

令和6年の訪日外国人旅行者数(図4)は3,687万人、旅行消費額は8.1兆円となり、令和元年を上回って過去最高を記録しました。

この背景には、円安の進行による訪日旅行の価格面での魅力向上があると考えられ、訪日旅行の需要が拡大している状況がうかがえます。

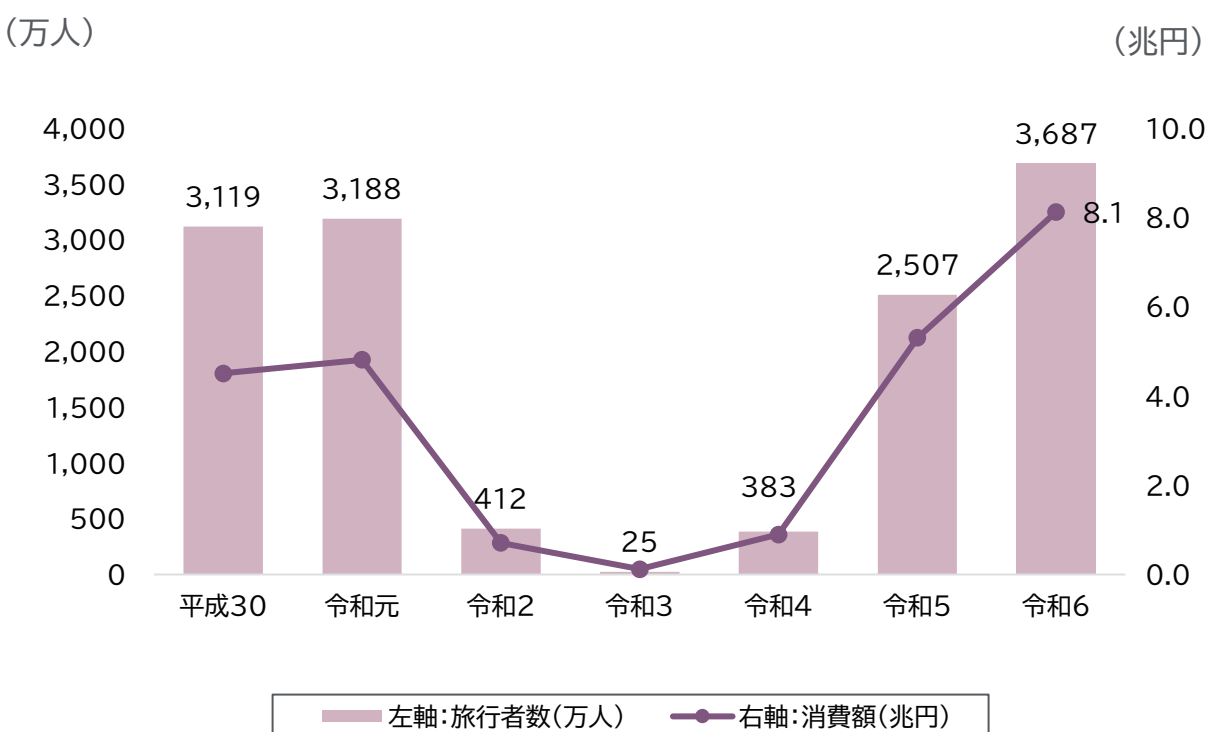
近年、訪日外国人旅行者の観光消費は、日本経済において重要な役割を担うようになっており、観光は今後も成長が期待される分野として位置付けられます。

訪日外国人旅行者の国籍別内訳(図5)を見ると、令和6年には、韓国からの訪問者が881.8万人と最も多く、全体の23.9%を占めています。次いで、中国が698.1万人(18.9%)、台湾が604.4万人(16.4%)と続いており、これら上位3つの国・地域で訪日外国人旅行者全体の過半を占めています。

また、訪日外国人旅行者の8割以上はアジアからの来訪者であり、インバウンド需要はアジア市場を中心に構成されています。

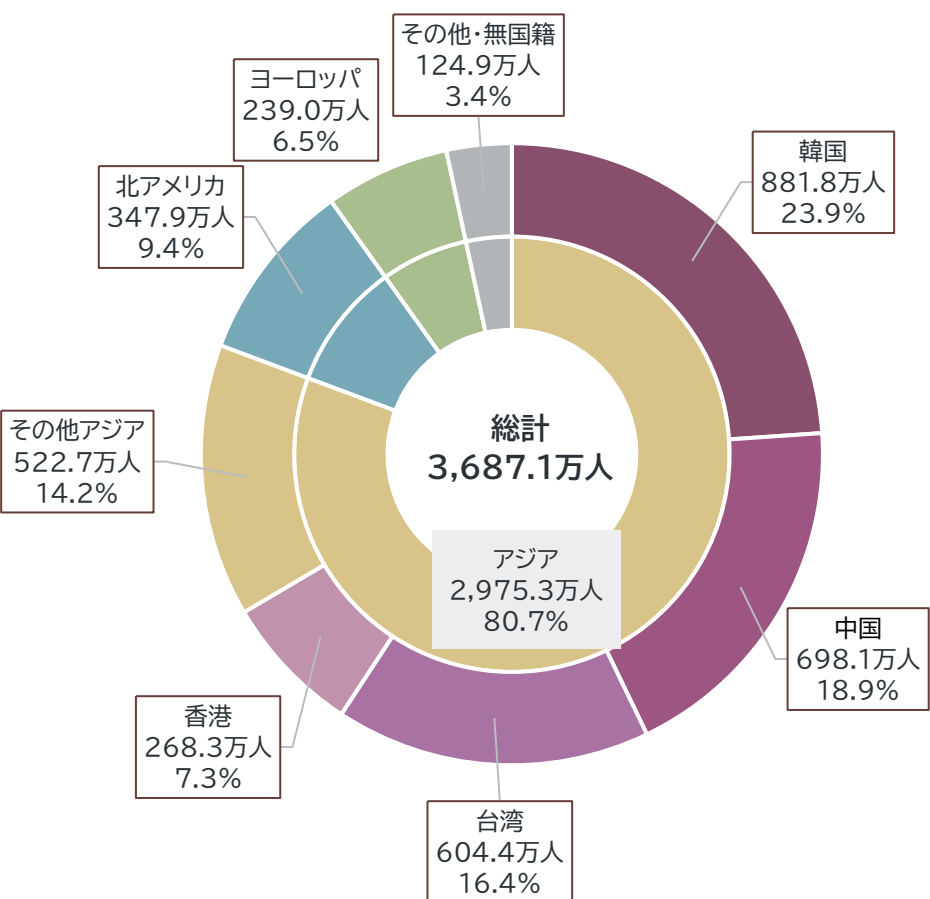
こうした状況から、訪日外国人旅行においては、引き続きアジア市場が重要な位置を占めていることがうかがえます。

図4 訪日外国人旅行者数と消費額の推移



出典：観光庁 インバウンド消費動向調査より作成

図5 訪日外国人旅行者の国籍別内訳(令和6年)



出典：日本政府観光局(JNTO) 訪日外客統計より作成

■小江戸甲府花小路



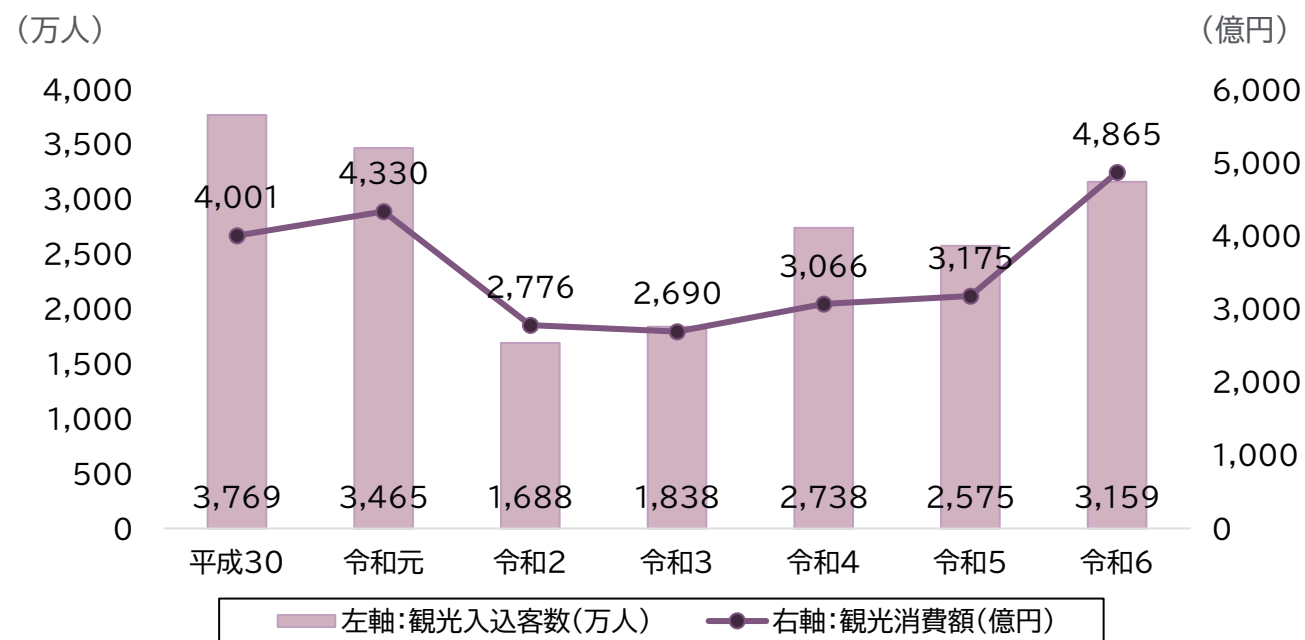
02 | 山梨県の観光動向

① 観光入込客数と観光消費額の推移

山梨県の観光入込客数の推移を見ると、平成30年に3,769万人と過去最高を記録しました。その後、令和2年から令和3年にかけては、新型コロナウイルス感染症の影響により大きく落ち込みました。令和4年以降は回復基調に転じていますが、依然として新型コロナウイルス感染症前の水準には達していません。

一方で、観光消費額については令和6年に4,865億円となり、過去最高を更新しました。

図6 観光入込客数と観光消費額の推移（延べ人数）



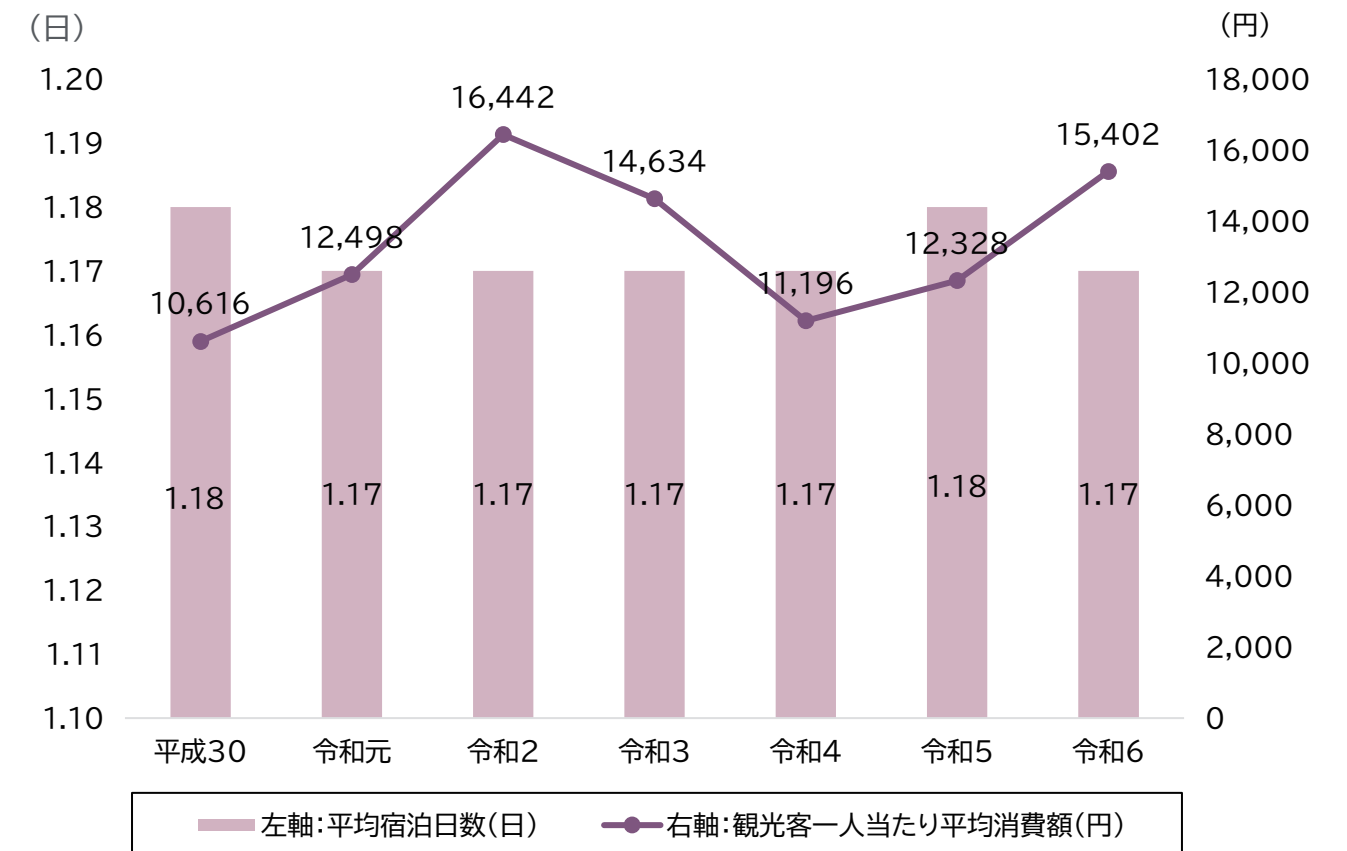
出典：山梨県観光入込客統計調査より作成

② 観光客の平均宿泊日数と一人当たりの消費額の推移

山梨県の観光客の平均宿泊日数は、全期間を通じて1.17日から1.18日で推移しており、大きな変化は見られません。

一方、一人当たりの消費額は、新型コロナウイルス感染症下での宿泊支援のキャンペーン等の影響による変化があったものの、直近2年間は増加傾向にあり、令和6年には15,402円に達しています。

図7 観光客の平均宿泊日数と一人当たりの消費額の推移



出典：観光庁宿泊旅行統計調査、山梨県観光入込客統計調査より作成

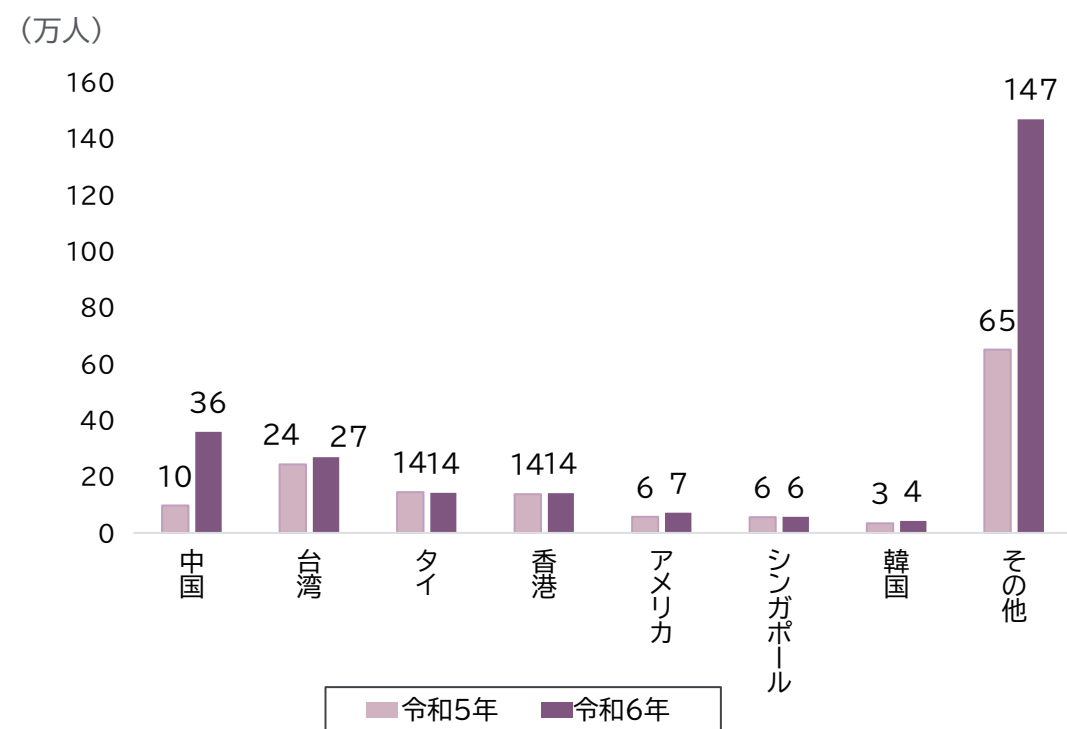
③ 国・地域別の訪日外国人宿泊者数

国・地域別の訪日外国人宿泊者数(図8)を見ると、中国とその他の地域の宿泊者数が大きく増加しており、全体の宿泊者数を押し上げています。

一方、それ以外の国・地域はほぼ前年と変わらないことから、回復状況に差が生じています。

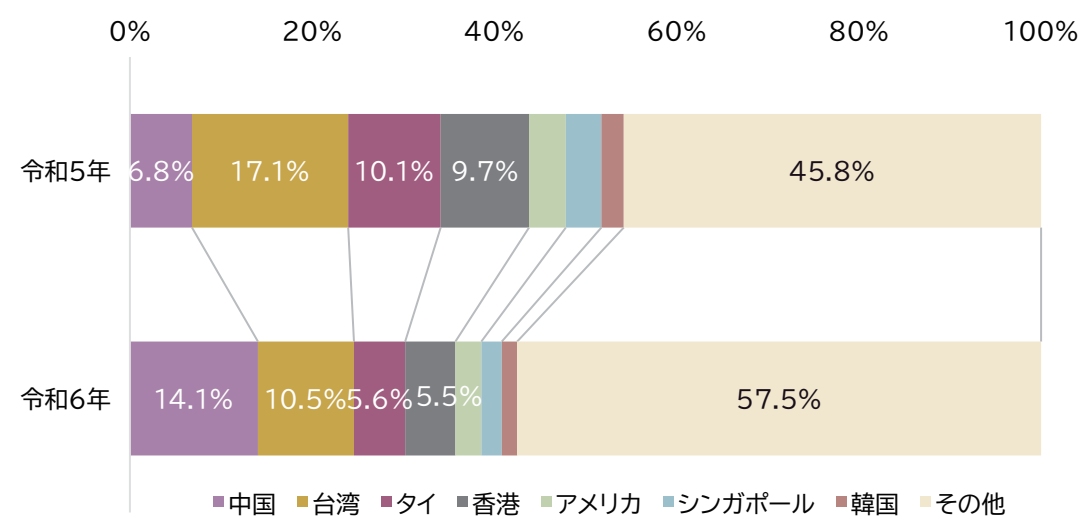
国・地域別の構成比(図9)を見ても中国とその他の割合が増加しており、インバウンド回復を牽引している状況です。

図8 国・地域別の訪日外国人宿泊者数(延べ人数)



出典：観光庁 宿泊旅行統計調査、山梨県観光入込客統計調査より作成

図9 訪日外国人宿泊者の国・地域別構成比



出典：観光庁 宿泊旅行統計調査、山梨県観光入込客統計調査より作成
 (地域別構成比(%))=(国別宿泊者数÷延べ宿泊者数)×100にて算出)



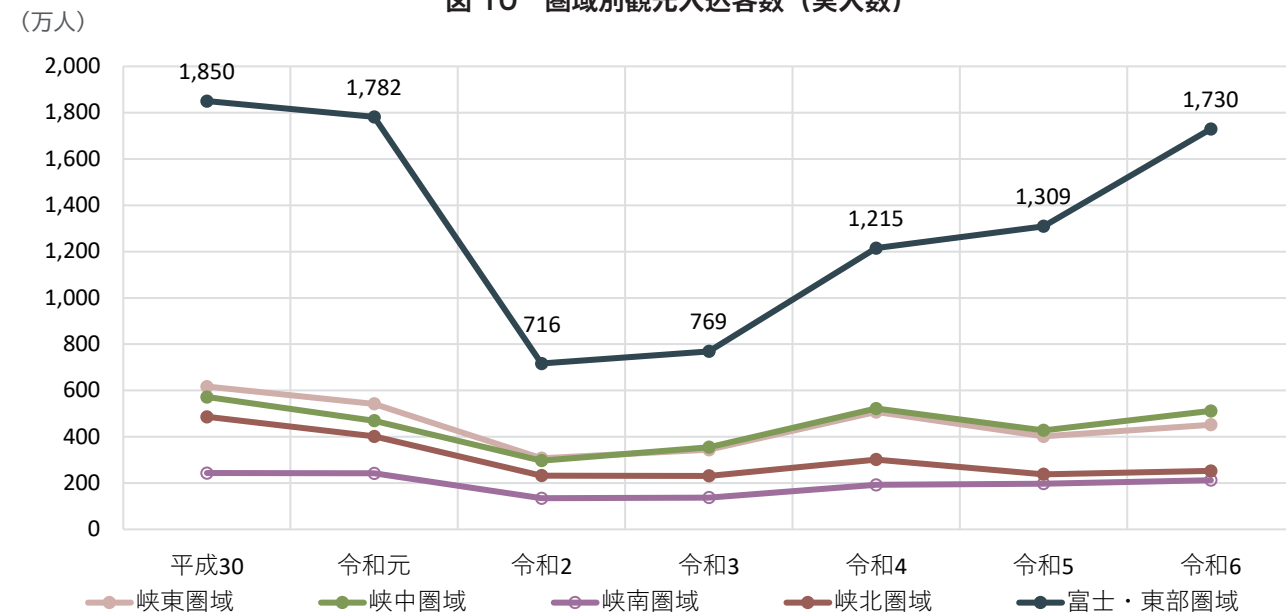
④ 圏域別の観光入込客数

山梨県内の圏域別の観光入込客数を見ると、富士・東部圏域が最も多く、県内観光を牽引している地域であることが分かります。平成30年には1,800万人台と高い水準に達しました。その後、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年から令和3年にかけて大きく減少しましたが、令和6年には再び1,700万人台まで段階的に回復しています。

また、その他の圏域は、いずれも200万人台から500万人台で推移しています。

このように、県全体の観光入込客数は富士・東部圏域の動きに大きく左右されている状況です。

図10 圏域別観光入込客数（実人数）



出典：山梨県観光入込客統計調査より作成

■山梨県の圏域分類

県内を以下の地図に示すように、5つの圏域（峡中、峡東、峡南、峡北、富士・東部）に分類しています。本市がある峡中圏域は、他、甲斐市、昭和町、中央市、南アルプス市が属します。



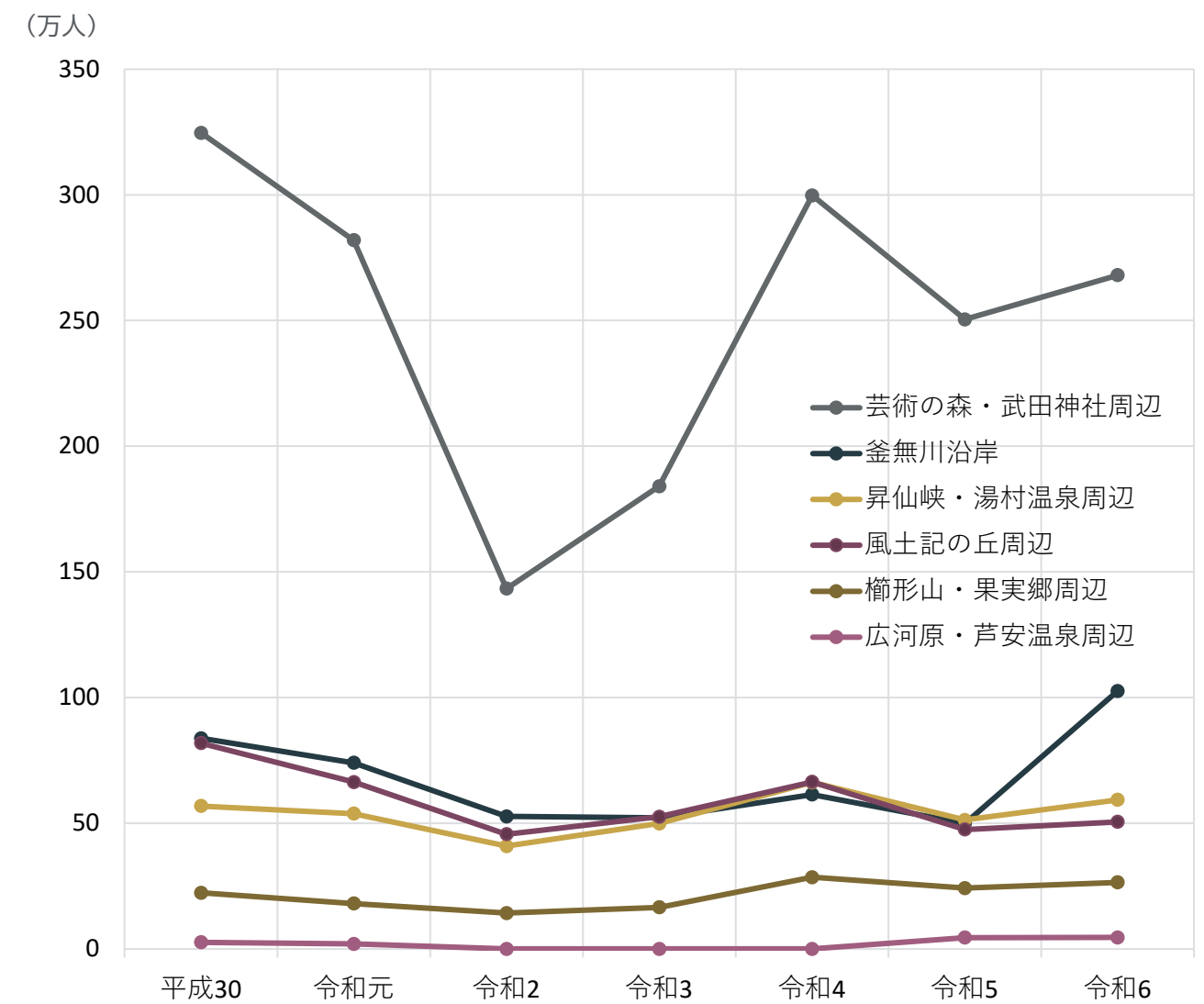
⑤ 峡中圏域の観光地別入込客数

峡中圏域の観光地別に入込客数の推移を見ると、「芸術の森・武田神社周辺」は、全期間を通じて来訪者数が最も多いエリアです。令和2年から令和3年にかけては、新型コロナウイルス感染症の影響により大きく落ち込みました。令和4年以降は回復基調に転じていますが、依然として新型コロナウイルス感染症前の水準には達していません。

「昇仙峡・湯村温泉周辺」および「風土記の丘周辺」は50万人前後で推移し、「釜無川沿岸」は令和6年に大きく入込客数を増やしています。

このように、エリアによって回復状況や年ごとの変動に差が見られますが、全体として回復が進んでいます。

図11 峡中圏域の観光地別入込客数（実人数）



出典：山梨県観光入込客統計調査より作成

※芸術の森・武田神社周辺：芸術の森・武田神社の他、甲府駅周辺や、小瀬スポーツ公園等を含む